

<b>学校の概要</b>		学校名	茅野市立 宮川小 学校		学校長	古畑 祐二		児童生徒数	683 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	宮川小学校コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人
			民生児童委員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人
会議開催数(予定)	5	回	今年度開催日(予定)	4/28 7/11 11/30 12/14 2/24		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童委員			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		きたえよう自分を！はぐくもう豊かな心と友情を！ 1人ひとりのちがいが輝く宮川小学校「協働・創造・寛容」									
地域と共有された育てたい子どもの姿		「元気よくあいさつができる宮川の子」 ・1人ひとりの個性が輝く ・1人ひとりが未来に夢をもてる ・地域に愛情をもてる									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について		○								
3	地域の実情や課題について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		70 人
									参加者延べ人数		30 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山			
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		おはなしプレゼント(7/1)		5年米づくり(5/23~10/1)		宮川ドリームゼミ(10/28)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか) 「宮川ドリームゼミ」(創立150周年記念事業の一環) ・地域にある事業所等の協力を得て、校内において子どもたちの体験学習「宮川ドリームゼミ」を実施した。 ・協力いただいた事業所等は、消防署・トレーニングジム・銀行・ギター工房・建築会社・精密加工業等で33業種であった。 ・各講座(各業種)の講師の方から専門的な知識や技術を教えていただいたり実際に体験をしたりして、「働く楽しさ」「働きたい」を伝えていただいた。 ・子どもたちにとっては、将来への夢や希望を抱く一助となる取り組みとなった。											
<b>育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題</b> (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)											
・ボランティアの方々の年齢層が高くなってきており、人材確保が難しくなっている。 ・本年度も新型コロナウイルス感染症警戒レベルにより、各活動や会議開催が推進しにくい状況にあった。											